



栈橋等の鋼管杭の断面変化の考え方について（通知）

技術基準の種類:設計・施工
通知日:平成 9 年11月25日

事 務 連 絡
平成 9 年11月25日

倉吉土木事務所長
米子土木事務所長
鳥取港湾事務所長

様

港 湾 課 長

栈橋等の鋼管杭の断面変化の考え方について（通知）

このことについて、別添写しのとおり運輸省第三港湾建設局工事課長から通知がありました。
については、事業実施にあたり注意してください。

事 務 連 絡
平成 9 年11月 7 日

鳥取県土木部
港湾課長 殿

第三港湾建設局
工事課長

栈橋等の鋼管杭の断面変化の考え方について

標記について、別紙のとおり港湾局技術課から通知がありましたので、今後はこれを参考とされたい。
なお、貴管内の市町村港湾管理者にも貴職より周知されたい。

（別紙）

事 務 連 絡
平成 9 年11月 7

第一～五 港湾建設局
工事課長 殿
北海道開発局港湾部港湾建設課
港湾技術対策官 殿
沖縄総合事務局開発建設部
港湾建設課長 殿

港湾局技術課
補佐官 春日井康夫

栈橋等の鋼管くいの断面変化の考え方

栈橋等の鋼管くいの断面変化の考え方については、各局及び各港湾管理者が施工実績、現地の状況等を加味して独自
に取り扱ってきたところであるが、今般、下記のとおり基本的な考え方を整理したので、今後は港湾管理者の指導を含
めてこれを参考とされたい。

記

栈橋等の鋼管くいに継手を設ける場合には、くいの応力、支持力等が安全となることを確認したうえで、下のくいの
肉厚及び鋼種の変更を検討する。

（注）

- 1．鋼管くいの鋼種としてSKK490とSKK400があり、近年、栈橋等のくいにはSKK490が多く用いられるようになってい
る。また、SKK490とSKK400を工場溶接により継いでいる事例も増えており、特に問題が生じていないことから、基本
的に鋼種の変更も検討の対象とする。
- 2．鋼管くいの鋼種の変更にあたっては、地盤条件、施行条件等の現場条件に配慮した上で、ネガティブフリクション、
くい打ち時の座屈等の問題に従来以上慎重に検討することが望ましい。
- 3．栈橋等の鋼管くいは仮想地表面から $2 / \beta \sim 3 / \beta$ の位置で継手を設けている事例が多い。
- 4．地震力によって地盤の側方流動が生じた場合のくいに発生する応力については、未解明な部分が多いため設計法の
確立が急がれる。今後、これらの点については 検討を進めていく予定である。